

令和6年度 教育活動等に対する学校評価書(自己評価結果書)

学校法人二葉学園 葛飾二葉幼稚園

1. 本園の教育目標

「自立と思いやりの心」

●自ら考え、自ら課題にぶつかり、自ら解決できる子

遊びや保育を通して、知的好奇心や探究心、興味、関心、意欲を引き出し、一人一人の段階に合わせて生きる力に結びつける。

●自らを律しつつ、他者を思いやれる子

友だちが好き、先生が好き、幼稚園が好きという思いを通して、暖かい風土や雰囲気の中で他者を好きになることで、自分を律しつつ、一人でも遊べ、みんなとでも遊べることを身につけ、さまざまな場面でも他者を思いやり、自分の意思を選択できる力に結びつける。

●健康で、がまん強いたくましい子

物の豊かさが心や身体に及ぼす影響を踏まえ、幼児期に必要な運動による身体能力の向上、心の発達、神経機能の発達を目指し、心身ともに健康な子どもに育てる

2. 保育理念

- ① 子どもたちの最善の利益を基本として教育を行う
- ② 子どもたちの権利を守り、生きる力を育む
- ③ 子どもたちのよき指導者としてともに歩み、ともに成長する
- ④ 家庭の良きパートナーとして、望ましい家庭教育・環境像をさし示し、地域の教育力の向上に務める
- ⑤ 施設も社会の一員として、地域の子どもの子育て・子育てを支える

3. 当年度振り返り・課題

① 保育活動

目標

5領域を意識した教育保育活動の充実

振り返り・課題

『おうちえん』において、その日の活動が5領域のどの活動であったのかを継続して表記したことで、日々の振り返りをした時にどの分野であったのかを改めて確認し、保育内容がバランスよく計画できていたかどうかの把握ができるようになった。保護者の方にも、日々の保育がどのような目的・内容であるのかをお伝えし、園の教育保育に対してのご理解を深めていただけるようになった。

また、幼児クラスでは、日々の保育に活用しやすいよう、5領域に特化した年間計画をこまめに確認するようにしたり、乳児クラスでは、月・週のねらいに5領域（0歳児は3つの柱）を記入し、より意識を高められるようにした。

活動後にあらためて5領域との関係を振り返ることで、今後、さらにそれぞれの活動が、どの領域と深く関わっているのか、より意識を高められるようにしていきたい。

② 人材育成

目標

- ・新人研修の見直しを行い、業務の内容を確認した上で段階を踏み、年間を通して無理なく実践していく。
- ・キャリアに合わせた業務ができるよう、チーム保育の良さを出せるようにする。

振り返り・課題

- ・年齢が近い職員が新人研修を担当していたことが数年続いていたが、園のこれまでの経過を把握している主任層の職員が行うことにした。その時に、どのようなことが求められているのか、どのような学びが必要なのかを熟考して研修が進められるようになっただけでなく、まだ経験が浅い職員には、自分の保育を高められる時間を確保（専念）できるようにした。
- ・月に一度の服務チェック（1 on 1）において、業務が順調であるか、困ったことはないかを把握し、支障があった場合には、業務を振り分けるなどして個々の負担にならないようにした。服務チェック担当者は、ただ話を聴くだけでなく、より良い業務ができるような対話を心がけた。
- ・IT化が益々進行していく中、人と人とのコミュニケーション不足にならないよう、引き続き服務チェック（1 on 1）を行い、より良い関係づくりができるよう、また、行う日程に無理が無いよう見直していきたい。
- ・保育教諭や子育て支援員の免許や資格を所有していない職員が取得を希望した場合、環境を整えて取得できるよう導き、取得を実現することができた。

③ 運営管理

目標

- ・個別支援が必要な園児がいるクラスを、より手厚いサポートができるよう体制を整える
- ・職員の採用につながる取り組みを継続して進める
- ・同一法人の『ふたばこどもセンター』や、他の療育施設との連携を図り、個別支援児

(加算申請提出者)の保護者と、園との連携を充実させる

振り返り・課題

- ・サポートが必要なクラスは、フリー職員が入室するようにした。担任とフリー職員が協力して、クラス運営がスムーズとうになった。
- ・より質の高い保育を実践するための職員体制を考え、全国的に保育教諭が不足している状況ではあるが、より良い職員の確保につながるよう、相談会や就職フェアに積極的に出席をした。また、職員が母校に戻り、授業の中で自園の保育について話をする機会をいただくこともあり、保育養成校とのつながりを大切にした。
- ・療育施設との連携においては、同法人のふたばこどもセンターと密な連携を進められるようになった。しかし、連携の手段が明確でないところがあるため、今後の課題としていく。
- ・保育の中で、支援を必要とするシーンが増えているため、職員確保や配置を堅実にできるように引き続き努力をしていきたい。

4. 総括

自然遊びを取り入れた保育については、月に一度の専門講師による巡回、及び、研修をおこなったこと、また、日々の自然遊びを取り入れた保育の実践内容がどうであったのかをメールで講師に報告し、アドバイスいただくということを積み重ねていったことで、園が目指している“自園の環境を活かした保育”が徐々に定着させることができてきた。

“対話が多い園＝定着率が高い”を意識して『1 on 1』を実施し、様々な思いや考えを引き出すことができた。次年度も、より良い業務ができるような対話を続けられる環境を整える。

“子育てにおける地域の拠点であるこども園”の役割を果たすべく、地域の子育て中の親を招いて講習会を開催した。大変好評であったとともに、園の特色も知ってもらえる機会となり、継続させていきたい。